「日々の理科・田中」（第 94 号） 2014 (H26),-9,21

「ザラエノヒトヨタケ」

ヒトヨタケ（一夜茸）のなかまのキノコは、胞子を飛ばすのではなく、傘を溶かして（自己溶解といいます）、胞子を流して拡散します。いろいろな種類がありますが、中には「森の妖精」の名にぴったりの美しいものもあります。

その一つが「ザラエノヒトヨタケ」です。「ザラエ」は漢字では「粗柄」で、幼菌の時に柄（茎）に細かい鱗片のようなものがたくさんついていて、ザラザラしているように見えるという意味です。生長すると「ザラザラ」は消えて、透き通った美しい傘を開きます。

「ザラエノヒトヨタケ」　*Coprinus lagopus*

カラマツ林の林床に散生していました。傘の大きさは 3cm ぐらいです。こんな小さなキノコの傘にも穴があいています。これは「キノコバエ」の幼虫（蛆）が食べたあとです。キノコバエはキノコ専門のハエで、幼虫はさまざまな種類のキノコを食べます。生長したキノコの柄や傘には、シロアリのように内部に穴をあけて、中にたくさんの幼虫がいることが多いので、食用にする時は注意が必要です。（2014 年 9 月・北軽井沢）

傘は、本物の傘のように、「折りたたんだ傘を開いたような」蛇腹型をしています。ザラエノヒトヨタケは傘が溶けることはありませんが、朝きれいだった傘も、夕方には黒変してボロボロになります。繊細ではかないキノコなのです。

「傘を下から見た様子」

透き通った美しい傘です。しかしこの美しさを保っているのは、数時間だけです。この写真を撮るには、地面に這いつくばって、非常に難しい姿勢をしないといけません。

（お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋）